



目次／編集方針

編集方針

- 1 トヨタ紡織のはじまりとこれから
- 2 価値創造のドライバー
- 3 インテリアスペースクリエイターの具現化
- 4 2030年目標達成に向けた戦略
- 5 競争優位を支える経営資源の高度化
- 6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

Q₁

トヨタ紡織は、
どんな価値を
提供する会社なのか？

理解のためのキーワード

#移動空間の価値 #人を中心に

#DNA・アイデンティティ

→ Section 1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

Q₂

なぜ、
価値を生み出せるのか？

理解のためのキーワード

#価値創造プロセス #ものづくり実装力

#共創による価値創出

→ Section 2 価値創造のドライバー

Q₃

何を強みに、
どう形にしていくのか？
経営トップは何に
コミットしているのか？

理解のためのキーワード

#移動空間領域 #ISC(考え方・枠組み)

#強みの事業化 #トップの意思

→ Section 3 インテリアスペースクリエイターの具現化

Q₄

2030年に向け、どのように
成長に向けたギャップを
乗り越えるのか？

理解のためのキーワード

#中期経営計画 #進捗・現在地

#地域別戦略 #財務戦略

→ Section 4 2030年目標達成に向けた戦略

Q₅

限られた経営資源を、
どこに活かし、
企業価値を高めるのか？

理解のためのキーワード

#3つの強みの深化

#足らざる資本・課題

→ Section 5 競争優位を支える経営資源の高度化

Q₆

経営の意思決定は、
企業価値向上に向け
どう進化しているのか？

理解のためのキーワード

#取締役会の実効性

#ガバナンスの進化

→ Section 6 強靱なグローバル経営基盤の確立

CONTENTS

Q₁ トヨタ紡織は、どんな価値を提供する会社なのか？

Section

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

- 07 豊田綱領から紡ぐVision
- 08 私たちの原点
- 09 ビジネスモデル
- 10 3つの強み
- 11 TB Wayの実践と行動変革

Q₂ なぜ、価値を生み出せるのか？

Section

2 価値創造のドライバー

- 13 価値創造プロセス
- 14 事業と製品
- 15 経営資源とその強化
- 17 ステークホルダーとの共創
- 19 マテリアリティ
- 22 価値提供事例
 - 1 熱マネジメント技術「遮熱天井」
 - 2 新発想の航空機シート

Q₃ 何を強みに、どう形にしていけるのか？
経営トップは何にコミットしているのか？

Section

3 インテリラスペースクリエイターの具現化

- 25 インテリラスペースクリエイター (ISC) とは
- 26 トップメッセージ
- 32 競争優位性
- 33 積み重ねてきた経営資源
- 34 市場環境認識
- 36 事業ポートフォリオ・顧客ポートフォリオ戦略
- 37 ビジネスモデルにおける収益力と資本効率の両立

Q₄ 2030年に向け、どのように成長に向けたギャップを乗り越えるのか？

Section

4 2030年目標達成に向けた戦略

- 39 2030年中期経営計画の全体像
- 40 経営戦略のフレームワーク
- 41 製品ロードマップ
- 42 【特集1】人を中心とした移動空間価値の体現「TBlocks」
- 44 【特集2】人を中心とした移動空間価値の体現「航空機シート」
- 46 財務KPIの進捗
- 47 ESG KPIの進捗
- 48 KPIのモニタリング強化
- 49 CFOメッセージ
- 54 投資戦略
- 55 地域別概況

Q₅ 限られた経営資源を、どこに活かし、企業価値を高めるのか？

Section

5 競争優位を支える経営資源の高度化

- 62 競争優位を支える経営資源(3つの強み)：技術開発
- 64 知財戦略
- 66 トヨタ紡織グループのDX
- 67 競争優位を支える経営資源(3つの強み)：ものづくり
- 69 品質
- 70 サプライヤー
- 71 環境取り組みの全体像
- 72 2030年環境取り組みプラン達成に向けた取り組み
- 74 TCFDへの対応
- 75 TNFDへの対応

- 76 競争優位を支える経営資源(3つの強み)：人づくり
- 78 人材戦略
- 79 人的資本経営の全体像
- 80 グローバルに活躍できる人材の育成
- 81 ダイバーシティ&インクルージョン
- 82 人権尊重の取り組み・安全衛生
- 84 健康経営・ウェルビーイング

Q₆ 経営の意思決定は、企業価値向上に向けてどう進化しているのか？

Section

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

- 86 取締役会議長メッセージ
- 87 社外役員対談
- 89 コーポレートガバナンス
- 92 役員一覧・スキルマトリクス
- 94 取締役会の実効性評価

補足資料・データ

- 96 組織とCxOの組織管掌
- 97 中期経営計画の歩み
- 98 10ヵ年サマリー
- 100 株式・企業情報

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリラスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

編集方針

- 1 トヨタ紡織のはじまりとこれから
- 2 価値創造のドライバー
- 3 インテリアスペースクリエイターの具現化
- 4 2030年目標達成に向けた戦略
- 5 競争優位を支える経営資源の高度化
- 6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

目次／編集方針

発行にあたって

トヨタ紡織は、当社グループの企業価値向上に向けた取り組みをお伝えするため、「統合報告書」を発行しています。2026年度は、ステークホルダーのみなさまとの対話を通じて得られた資本市場の関心が高いテーマをよりわかりやすくお伝えするため、「Q&A形式」を採用しました。持続的な成長ストーリーや、収益力と資本効率など、投資家のみなさまの関心



経営企画本部
Chief Strategy Officer
おぎそ たけし
小木曾 毅

にお応えする構成としています。本報告書を通じて当社への理解を深めていただき、企業価値向上に向けた建設的な対話につなげていきます。なお、本報告書は経営陣の関与のもと関係部署と連携して作成し、記載内容の適切性を確保しています。

報告対象の範囲

本報告書は、日本および世界各地域のトヨタ紡織グループを報告対象としていますが、取り組みごとに報告範囲は異なります。本報告書では、以下の表記で報告対象を使い分けています。

トヨタ紡織グループ：日本、米州、中国、アジア、
欧州・アフリカ地域

トヨタ紡織：トヨタ紡織(株)

日本地域：トヨタ紡織(株)、日本子会社

日本以外の地域：米州、中国、アジア、欧州・アフリカ地域
一部項目は個々に範囲を記載しています。

本報告書の対象期間

2025年4月1日から2026年3月31日まで。
一部に当該期間外の活動内容を含んでいます。

参考にしたガイドラインなど

- IFRS財団「IFRSサステナビリティ開示基準」「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」
- 内閣府「知財・無形資産ガバナンスガイドライン」
- GRIスタンダード
- ISO26000
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)
- 自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)
- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

予測情報に関する注記事項

本報告書には、トヨタ紡織グループの将来の計画や戦略、業績に関する予想、見通しが含まれています。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定および所信に基づく見込みです。また、経済動向、自動車業界における激しい競争、市場需要、税制、法律、制度変更、天災などのリスクや不確実性を含んでいます。したがって実際の業績は当社の見込みと異なる可能性があります。

業績に関する数字の表記について

本報告書に記載している業績に関する数字は、表示未満の位を切り捨てています。

本PDFの見方・使い方

本PDFはインタラクティブPDFです。

本文中のリンクマークや各ページ右側のセクション名をクリックすると、報告書内の関連ページや当社ウェブサイト、開示資料へアクセスいただけます。本報告書では、紙面の制約上掲載できない詳細な取り組みや各種データをウェブサイトで補足しています。報告書とあわせてご覧いただくことで、当社への理解をより深めていただければ幸いです。

XXXXXXXXXXXX : 外部サイトへ移動します

XXXXXXXX(P.00) : 該当ページへ移動します

XXXXXXXXXXXX : PDFファイルへのリンクです

【16:9型(横型)で閲覧の方】

画面右側の「ガイド」から各該当ページへリンクいただけます。

【A4型(縦型)で閲覧の方】

ブラウザで閲覧の場合は「16:9型

」への切り替えを推奨いたします。
印刷してご覧になる場合は、巻末の「誘導先一覧PDF」をあわせてご活用ください。

表紙について



当社の源流事業である繊維からの事業の広がりや、モビリティの今後の可能性を表現した企業広告動画のメインビジュアルを表紙にしました。車室内で過ごす時間と空間を価値のあるものにし、すべてのモビリティへ“上質な時空間”を提供していく、という当社の思いを表現しています。

(ご参考)企業広告動画

<https://www.youtube.com/watch?v=UxlyMolys6E>



情報開示体系

トヨタ紡織グループは、ステークホルダーのみなさまとの建設的な対話を促進し、企業価値向上につなげるため、多様な情報開示媒体を活用しています。統合報告書は、これらの情報を統合し、価値創造ストーリーや経営戦略を中長期的な視点からわかりやすくお伝えする中核媒体と位置づけています。各媒体では、目的に応じた詳細情報や個別テーマを開示し、補完的に情報提供を行っています。

	財務	非財務
対話の機会 ステークホルダーとの建設的な対話を通じて相互理解を深めるとともに、得られた知見を経営に反映し、企業価値向上につなげる取り組みとして活用しています。	決算説明会 株主総会 事業説明会 IRミーティング 個別・グループでの対話を通じて投資家の視点や示唆を経営に取り込み、資本効率の改善や価値創造ストーリーの高度化につなげています。	ESGミーティング ESG 課題に特化した対話を通じて理解を深め、サステナビリティに関する取り組みの実効性向上につなげています。
目的・対象者別レポート 各ステークホルダーのニーズに応じて開示媒体の役割を整理し、必要な情報を適切に届けることで、質の高い情報提供を行っています。	有価証券報告書	コーポレート・ガバナンス報告書 人的資本レポート 多様な人材の活躍や育成方針、エンゲージメントの向上策を定量・定性の両面からまとめ、競争力の源泉を可視化しています。
網羅的な情報開示 財務・非財務の両面から多様な情報を体系的に開示し、各媒体を通じてより広く、深くご理解いただけるよう情報提供を行っています。	株主・投資家情報ページ	サステナビリティページ ESG データ 環境特設サイト 脱炭素社会の実現に向けた具体的なロードマップや環境負荷低減のデータなど、専門性の高い情報を詳しく発信しています。

各種メディア

当社の事業活動や技術開発の詳細を紹介するウェブメディア

Team Breakthrough
トヨタ紡織グループの挑戦と変革を伝えるメディア

INNOVATION AT TOYOTA BOSHOKU
トヨタ紡織グループの技術開発に関する取り組みを紹介するイノベーションサイト

編集方針

- 1 トヨタ紡織のはじまりとこれから
- 2 価値創造のドライバー
- 3 インテリアスペースクリエイターの具現化
- 4 2030 年目標達成に向けた戦略
- 5 競争優位を支える経営資源の高度化
- 6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ